



令和8（2026）年度 自治医科大学説明会

～医療の谷間に灯をともし～

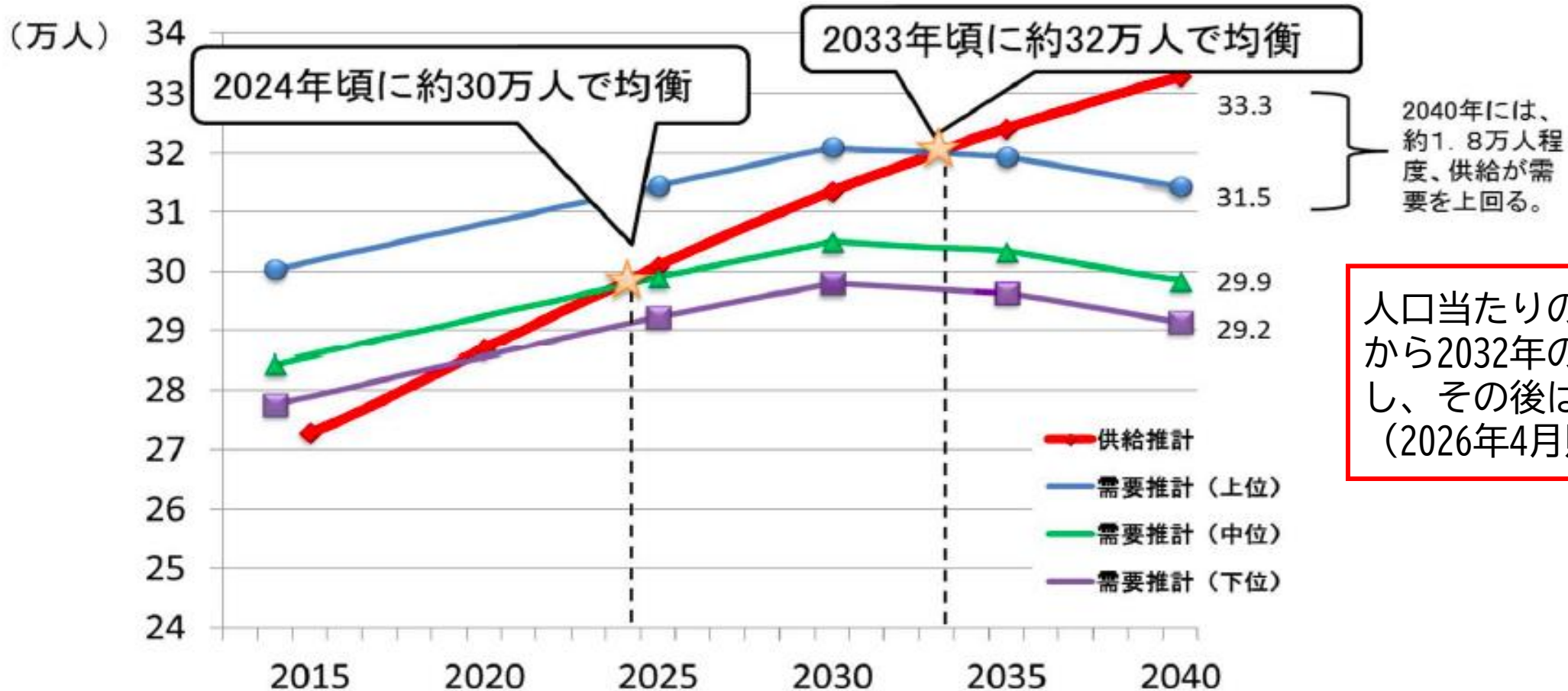


Be a
Glocal
Doctor!



私たちが、医療の谷間に灯をともす

医師を目指す皆さんに今考えてほしいこと



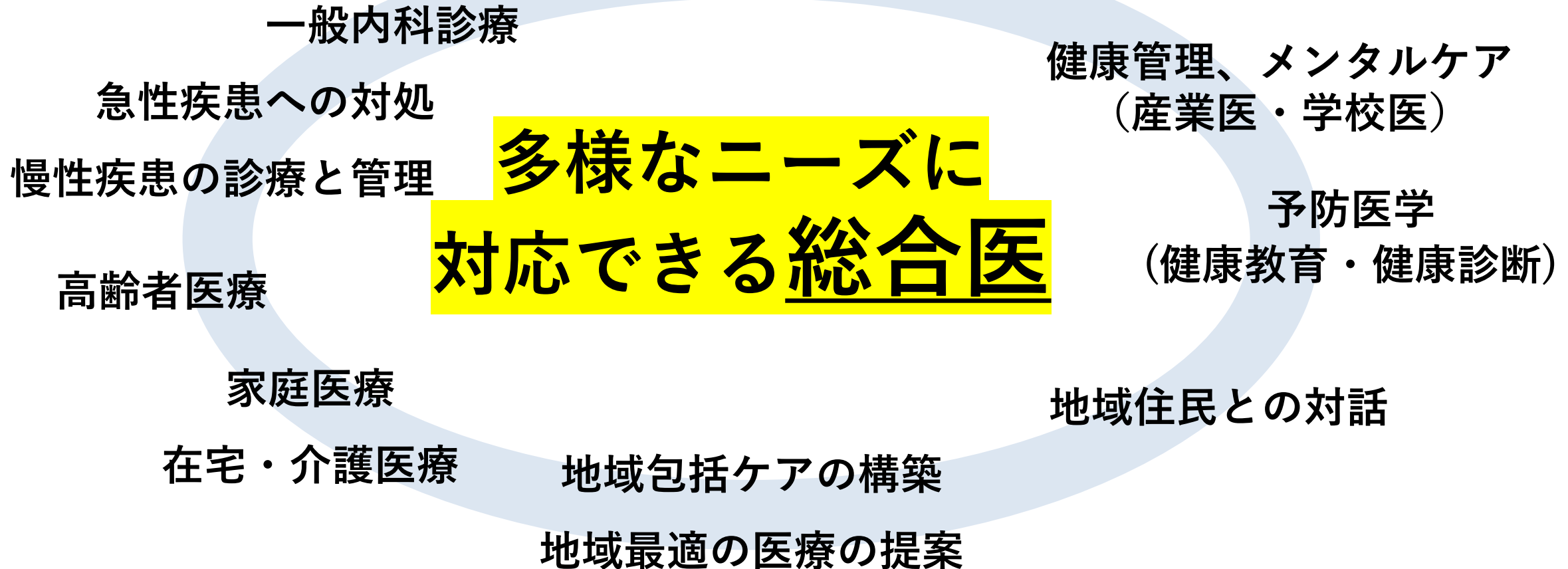
人口当たりの医師数は2029年から2032年の間に需給が均衡し、その後は過剰になる。
(2026年4月財務省推計)

人口が減少し、今後約5年で医師需給は均衡し15年後には需給が逆転します。
つまり、『時代が求める医師像は、確実に変わります』

これから医師を目指すあなたへ これからの日本に求められる医師像



高い総合的診断能力を有し、
地域の医療体制を行政と協力して先導できる！



-総合医として地域社会に貢献する人材を全国に輩出して54年-



総合的な人間力の^{とうや}陶冶と、
地域社会のリーダー育成を目指す

学長 永井 良三

※陶冶とは“人格や能力を円満に育て上げること”

01

優れた総合医を育成するカリキュラム



1年生から**全員**で「地域医療学」を学ぶ

地域医療診療実習(5年生)出身県都道府県の診療所



拠点病院実習(6年生)出身県都道府県の初期臨床研修病院



1年生から卒業までの6学年を通じて、
計200コマの独自の地域医療学
プログラム（講義や実習）を実施

出身県でも地域医療を実践的に学ぶ

例えば

- ・ 地域医療BSL（出身都道府県の**診療所**等）
- ・ 地域保健実習（全国**保健所**）
- ・ **拠点病院**実習（出身都道府県の研修病院等）



地域に出る前に **より長く臨床能力を磨く**

3学年 他大学より**1年早く** スチューデント・ドクター称号を取得

4～6学年 すべての診療科で診療チームの一員として実習

全国最長**78**週間のBSL（選択BSL：院内の診療科から）

※BSL(Bed Side Learning)



地域に出る前に幅広い臨床能力を磨く -附属病院全科ローテーション-

内科

循環器内科

消化器・肝臓内科

呼吸器内科

脳神経内科

腎臓内科

内分泌代謝科

アレルギー・リウマチ科

血液科

感染症科

総合診療内科

外科

心臓血管外科

消化器外科

呼吸器外科

脳神経外科

腎臓外科

乳腺科

整形外科

移植外科

形成外科

美容外科

泌尿器科

産科

婦人科

耳鼻咽喉科

眼科

皮膚科

歯科口腔外科

臨床腫瘍科

緩和ケア科

精神科

麻酔科

救命救急・総合集中治療センター

総合周産期母子医療センター

放射線診断・治療科

病理診断科

リハビリテーション科

小児科

小児外科

小児先天性心臓血管外科

小児泌尿器科

小児整形外科

小児脳神経外科

など

(自治医科大学附属病院の診療科より)

地域に出る前に**医学を深める**-フリーコース・スチューデントドクター制度-

5学年終了時

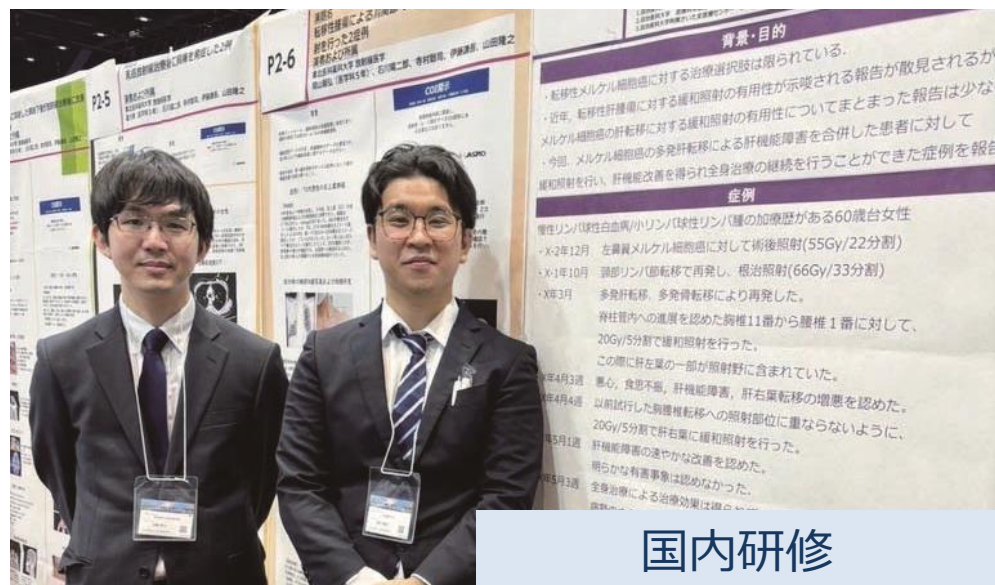
国家試験合格レベルに到達している、
志の高い優秀な学生から希望者を選考

6学年前半期まで

- ・ 総括講義の出席・卒業試験を免除
- ・ 各学生に**メンター**教員がつき、
7か月間の自主的な研修期間が付与
- ・ **国内外**の医療機関・研究所実習施設利用費を
全額負担、**交通費**も補助



海外研修



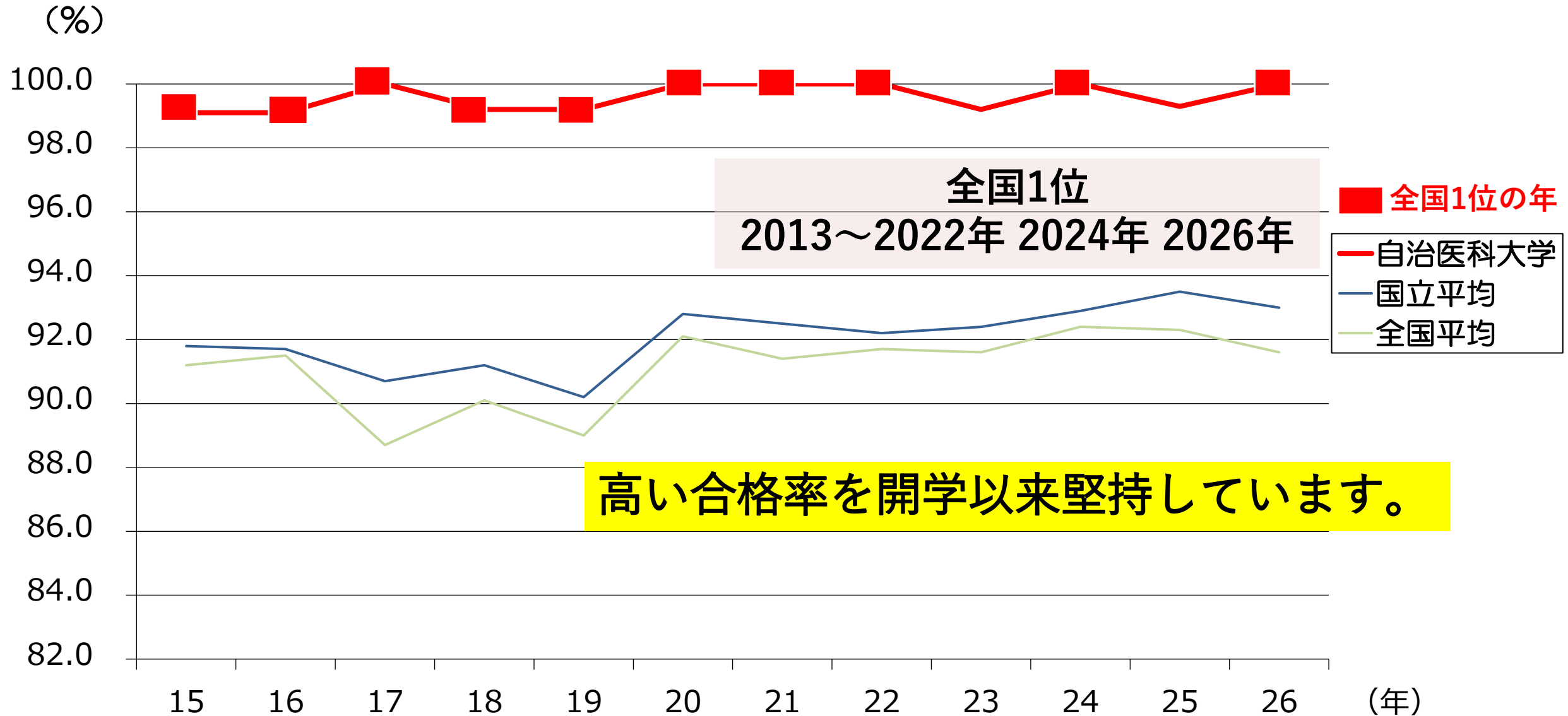
国内研修

02

全国トップクラスの医師国家試験合格率



医師国家試験合格率



手厚い学習支援



「担任会、学習支援部会が学習・生活をサポート」



4～6学年

国家試験に準じた総合判定試験で
段階的学習達成をチェック

6学年

1年を通じ手厚い補講

予備校模擬試験も大学が費用負担

低学年から始まる協働学習

学生寮ラウンジでの協働学習を推進 自習室・ラウンジで一緒に学び合う
BBS(Big Brother & Sister System)：上級生による1年生支援



03

安心・安全の全寮制



大浴場



自習室

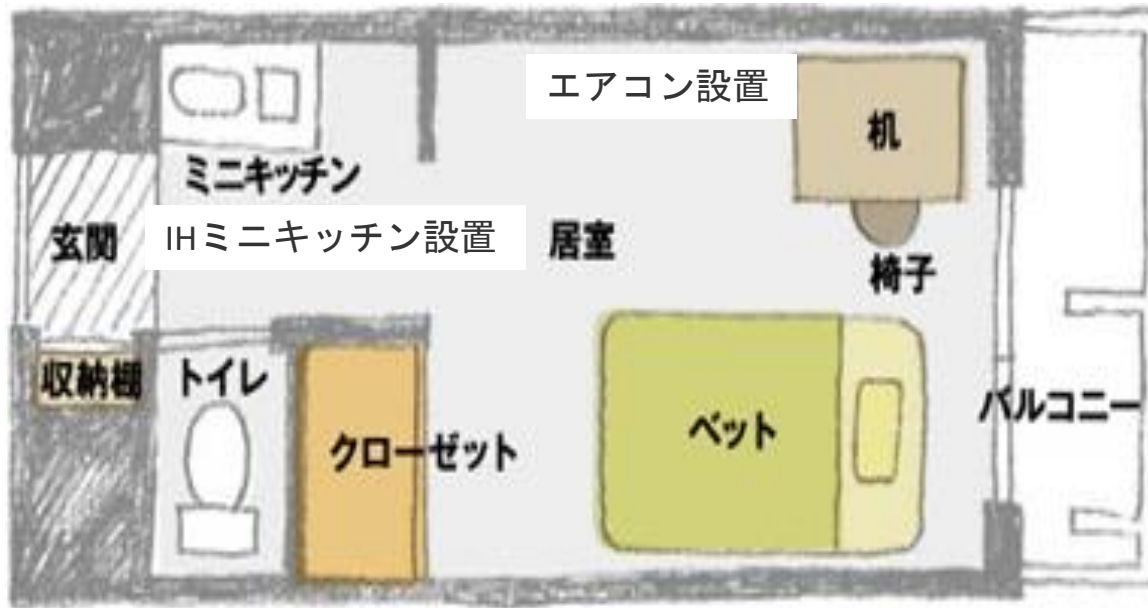


小ラウンジ



洗濯室

<学生寮>ワンルームタイプ



<学生寮セキュリティ>
各部屋にタッチキー式ドア
男女の寮はカードキーで区分け

<学生寮の費用>
寮費は8,500円/月（水道代込み）
※寮費は2026年4月現在のものです。
寮内・学内全てフリーWi-Fi完備
洗濯機・乾燥機は月額750円

<学生食堂>
朝食/昼食/夕食
100円朝食

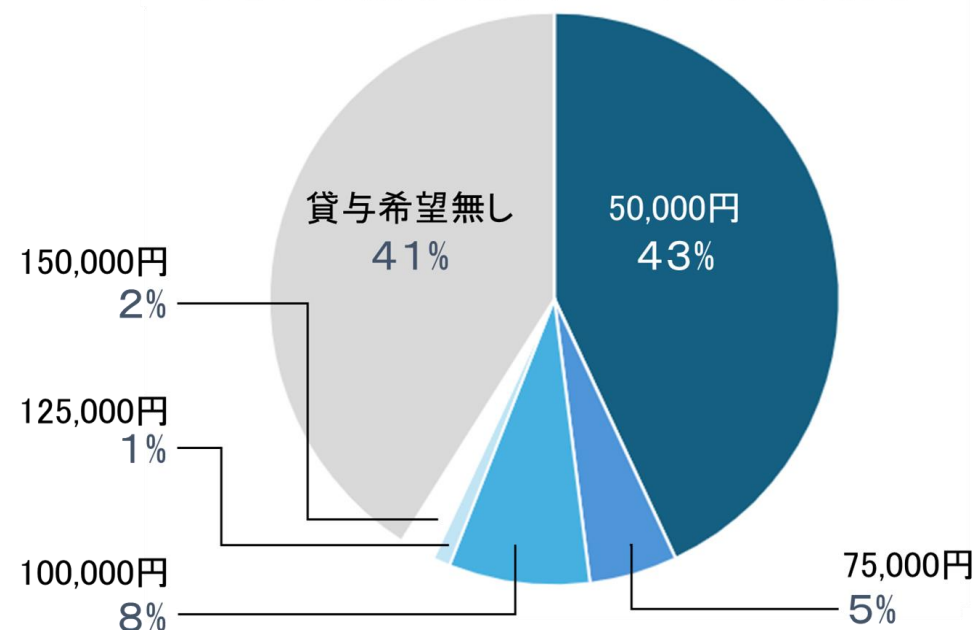


修学資金貸与制度で
入学金・授業料（6年間総額2260万円）免除
入学時には（自由に使える）**学業準備金 40万円支給**

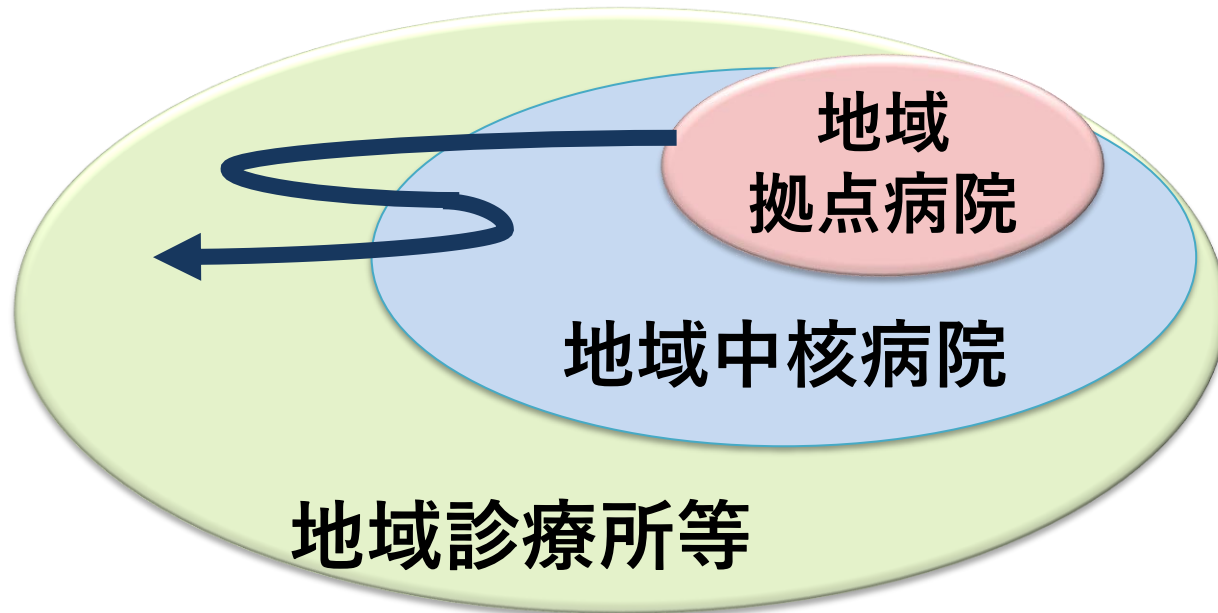
奨学資金貸与制度で
無条件で月額5万円を無利息で貸与
家庭の経済状態や学業成績などを
勘案して選考(最高月額15万円)

*卒業後、地域医療従事期間（9年以内）に割
賦の方法により返還していただきます。

在学生の貸与状況 [2026年5月1日現在]



高度医療機関から診療所まで
さまざまな医療機関で診療を経験



基本的な
卒業後の流れ

初期臨床研修

(出身都道府県の**地域拠点病院**)

※出身都道府県の優れた初期臨床研修指定病院で研修を受けることができ、医師としての技能をしっかりと身につけることができる

(通常はマッチングという選抜を受けなければならない!)

地域医療従事

(出身都道府県**地域中核病院**等)

後期臨床研修

(出身都道府県**地域拠点病院**、本学等)

地域医療従事

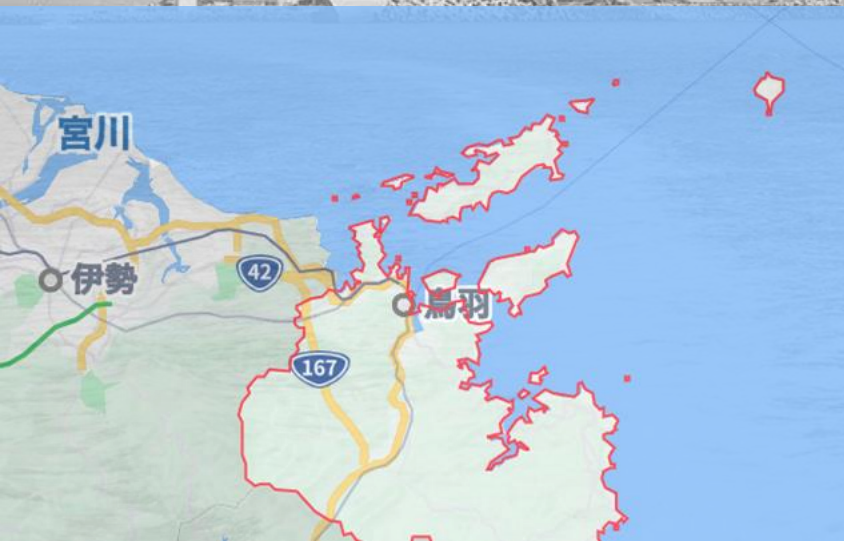
(出身都道府県**地域診療所等**)



医療の谷間に 灯をともし続ける

住み慣れた場所で暮らし続けられるように

鳥羽市立神島診療所 三重県26期 小泉圭吾



オンライン診療と
患者さんの移送が可能

医療MaaS

医師がその場にいなくても
診療ができる



オンライン診療

グループ診療



少人数で
複数の診療所を

面で支える



TRI Met
Toba Rural area & Island Medical team





原田 昌範

医学博士・総合診療専門医
(山口県周南市出身)

PROFILE

山口県立総合医療センターへき地医療支援センター長
山口県医療政策課へき地医療専任担当官
山口県防府保健所 所長
自治医科大学公衆衛生学講師（学外卒業指導委員）

長州総合診療プログラム責任者
公益社団法人地域医療振興協会 理事・山口県支部長
周南公立大学 客員教授
山口大学医学部附属病院 特命准教授（総合診療推進サテライトセンター長）
神戸大学医学部・山口県立看護学校 非常勤講師
厚生労働省医政局 厚生労働科学特別研究事業（原田研） 担当
厚生労働省老健局 在宅医療・介護連携推進支援事業検討部会 委員
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム 社会実装アドバイザー
国土交通省 国土審議会専門委員
日本遠隔医療学会 へき地遠隔医療分科会長

「へき地医療をデザインする」フロントランナー



01 | さまざまな仕掛けで へき地医療を牽引する

将来の日本の姿である離島へき地に
温もりのある医療DXを組み合わせる



03 | 現場に立ち続け 診療を通じて肌感を得る

患者さんの生の声は地域医療の原動力
答えは、家庭に、地域に、生きがいに

ONE TEAM
YAMAGUCHI



02 | 行政医師としても関わり 課題解決に大局的に挑む

点でなく面で守り、持続可能な仕組みに落とし込む
コロナ禍のピンチをONE TEAMでチャンスにも変える



04 | 次世代を担う 後進の育成に取り組む

離島へき地をフィールドに地域住民と一緒に育てる
多職種とつながり世代を超えてふるさとに貢献する

SCRUM
SUPPORT CENTER FOR RURAL MEDICINE

長州総合
診療プログラム
Choshu Family Medicine Residency



ワークライフバランスに関する支援

Jichi Post graduate self-Affirmation Support System



育児のあるなしにかかわらず、
男女ともに、それぞれのワークライフ
バランスを保ちながら、将来の
自分自身のキャリアを見据えて、
今の自分自身を肯定して、楽しみながら
人生を進んでいってほしい

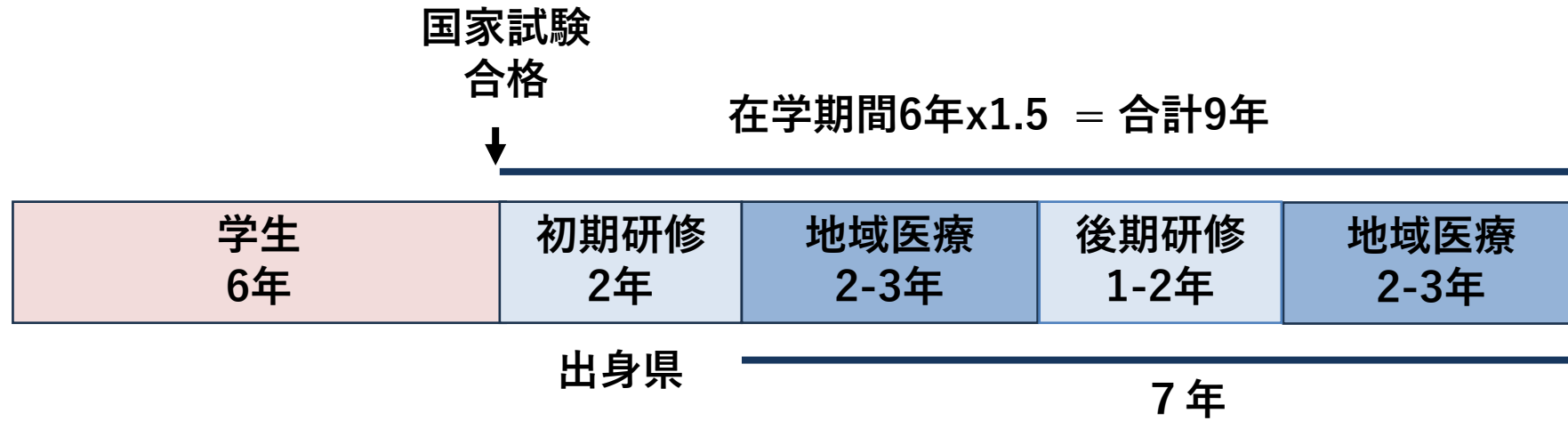
卒後ワークライフバランスについて考える会
卒業生からの講演や卒業生との意見交換会の場



学生懇談会
同じ都道府県の卒業生からの講演や意見交換会の場



在学6年＋卒後9年間のサポート体制



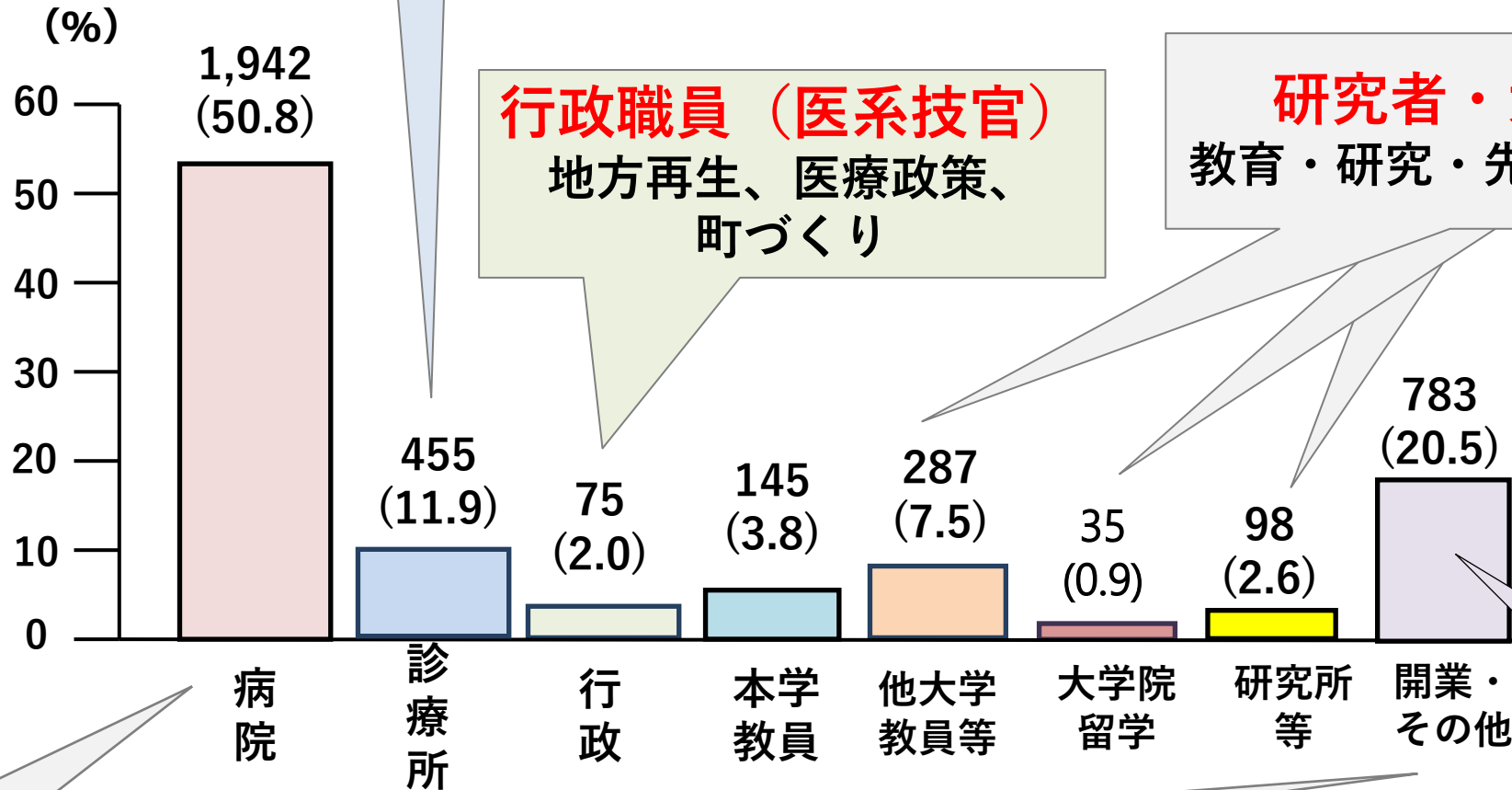
- ・ 医学教育センター（学習支援）
- ・ 学生生活支援センター
- ・ 学生寮生活サポートセンター
- ・ 学生都道府県人会
- ・ BBS（先輩たちによる新入生支援）
- ・ 都道府県担当、女性医師支援担当

- ・ 勤務医療機関
- ・ 都道府県庁担当部署
（研修、結婚、出産の支援の相談）
- ・ 卒後指導委員
- ・ 都道府県担当、女性医師支援担当
- ・ 卒業生支援プラットフォーム

将来の多様な進路

総合医

行政と協力して医療最前線を含む病院再編、地域包括ケアを構築



行政職員（医系技官）

地方再生、医療政策、町づくり

研究者・大学教員

教育・研究・先進医療に従事

専門医

専門医取得後も総合医のベースを生かし「なんでも診られる」医師として活躍

国際医療貢献

など海外へも

3,820名（令和7年7月1日現在）

自治医大の精神を忘れない



菊尾七臣先生

(兵庫県10期、本学内科学講座循環器内科学部門教授)

卒業後、都道府県庁職員
として働く卒業生を都道
府県庁と協力して
専門医や学位の取得
だけではなく
災害時など困った時
に支援しています。

救援活動の原点 困っている人 助けたい。

東日本大震災が発生した時、三陸海岸沿いの過疎地域の医療機関には多くの自治医大卒業生が勤務していました。

宮城県南三陸町の公立志津川病院には当時菅野武先生(宮城県28期)らがいました。

大災害に直面し逃げることなく、目の前の激変する医療状況にしっかり対峙した彼らの粉骨砕身の頑張りは、現地の医療に大きな貢献をしました。

私も1995年1月17日に阪神淡路大震災が発生した当時、震源地である兵庫県淡路島北淡町(現淡路市)の国保北淡診療所に勤務しており、東日本大震災ではフラッシュバックのように阪神淡路大震災の情景がよみがえりました。

それは私だけではなく、自治医大同窓会、卒業生や大学病院全体で、医療支援を行いました。医療の谷間つまり困った人を助けたいという自治医大の精神は脈々と受け継がれています。

(2012年5月1日付・愛媛新聞)

自治医科大学の求める人材



高校生で医師を目指す人はもちろん
すでに他大学で教育を受けている方、
社会に出て多様な経験をされた方で
地域の医療、
社会を支える気概にあふれ、
幅広い心を持つ方の
入学を期待しています。

学長 永井 良三

自治医科大学は、同じ志を持つ仲間（あなた）を待っています！



地元の地域医療を支える



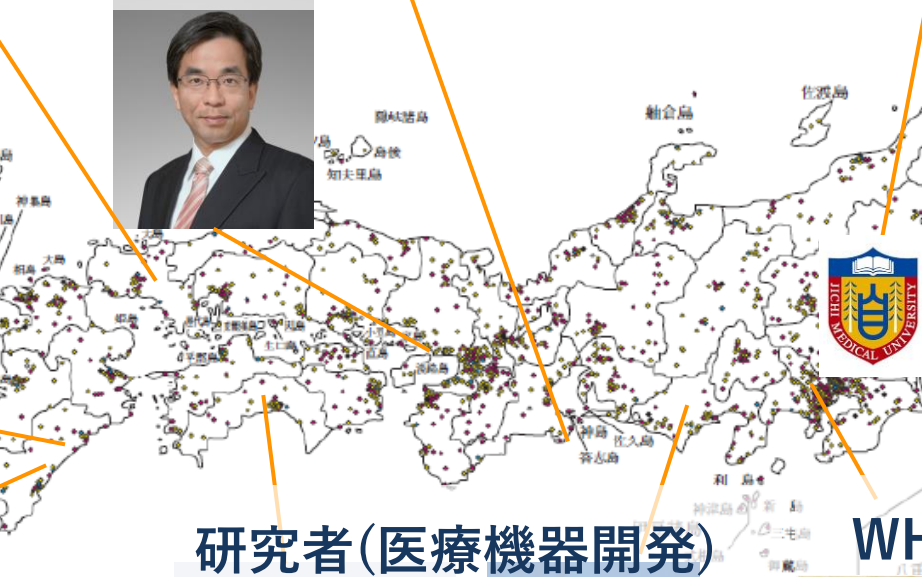
海外大学教員



本学教員として卒業生を支える



災害医療に貢献

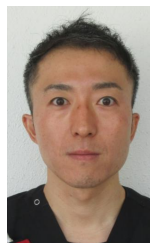


WHO

研究者(医療機器開発)



地元の救急医療を支える



国際医療貢献

ザンビアの辺地医療に支援を！



アフリカのザンビア共和国で、現地スタッフとともに医療活動を行っている山元香代子医師を応援しています。

【様々な分野で活躍する全国の卒業生】